

班からつながりたぐり よせて 前大会時現勢突破!

岐阜・多治見支部

あらゆる機会に新婦人を知らせて、出会いを大切に、仲間を増やしている多治見支部のとりくみを紹介します。

一人一役で
パワーアップ

多治見支部は会員の高齢化と次世代との出会いがなく、仲間づくりに苦戦してきまし。支部委員7人は全員が70代で、次世代を迎えることが緊急の課題でした。1月の支部大会で「次世代との『出会い』」を求めて、いろいろなとりくみに積極的に参加しよう」と決めました。毎月、商店街の「銀ブラ市」に参加し、「出会い」の中で新婦人を知ってもらおうと、チラシを配り、



新婦人フェスタ、あじさい班担当のお抹茶コーナーで

要求アンケートも行いました。

大事にしたことは、一人一役と委員みんなの力でとりくむこと。月1回のレッドアクションでは、司会、署名、シール投票、次世代対応係と役割分担をして、特に対話を心がけました。デモカレンダ

ーを見てきた次世代には、そのつどネクストカードと新婦人しんぶんを渡しています。

「もう少し目立つ横断幕を作らない?」「私が描くわ」と実現「憲法の新しい寸劇を作ろうよ」と2人が台本を書いて実演。次世代のアドバースで「一人一人を大切に、憲法大好き、武力じゃないよ、対話だよ」と肯定的な言葉でコールを作るなど、宣伝もパワーアップしました。

班を主体に
フェスタや原爆展

5月、「春の新婦人フェスタ」(小グループ会)を開催。新婦人しんぶんにあった「集ま



新しい横断幕でレッドアクション

もできそう」と2人が入会。再度の訪問で2人を読者に迎えました。

くりかえし
声をかけて

仲間づくりは「班を

8月の平和と仲間展でも、午前と午後の3時間ずつ、会員22人が当番を担当。来場者250人中138人と対話、70人がアンケートに回答など貴重な成果がありました。

レッドアクションでつながった次世代が平和展にきて「私も新婦人で活動したいです」と自ら入会。もう一人も読者に迎え、みんな喜びました。支部は会員で前大会時現勢を突破、班は6班中4班が回復・突破しています。



「浜松市の水道民営化を考える市民ネットワーク」事務局長 池谷たか子

公営水道が危ない ③

2019年4月の市長選挙を前に、当時の鈴木康友浜松市長は上水道のコンセッション(施設は自治体を持ったまま運営権を売却)を無期延期しました。私たちが市長・市議候補者にアンケートを取った際も、9割の候補者が「コンセッションに反対、またはどこらかというところを反対」でした。これではしばらくは動きがないと安心していただけろ、国は2023年に「コンセッションに段階的に移行するための新たな官民連携」との位置づけで、「ウォーターPPP」との新たな形の民営化を推進すると発表。コンセッションが一部導入された浜松市や宮城県で反対の運動が広がり、水道民営化が思うように広がらなかったため、政府が新たに考えたのです。「ウォーターPPP」を導入すれば市の水道職員は減らされ、10年後には民営化されます。さらに、政府は「ウォーターPPP導入を2026年度中に決定しないと、2027年度から下水道管改築の国費支援を打ち切る」という方針を打ち出しました。地方自治

全国の会を立ち上げ

びかけ、「水道民営化を考える市民ネットワーク」を立ち上げ、毎月Zoom会議で話し合い、署名やチラシのぼりを作成、現在68人加入のLINEグループで活動しています。「ウォーターPPP」の導入を国費支援の条件にする方針の撤回を求める要請署名(※)にとりくみ、2月には1万2460人分の署名を国土交通省に提出しました。2回目の署名提出は11月24日です。院内集会にぜひご参加ください。

※オンライン署名はこちら

【訂正】9月19日号で、市役所前の水曜スタンディングが「毎月第二水曜」とあるのは「毎週水曜」の誤りでした。

水道民営化の
おしつけやめて

市民ネットワーク
でつくる
11・24の院内
集会はライブ
配信あり

主張

11月13日、新婦人次世代国会行動をおこないます。全国から次世代会員が集まり、国会議員へ直接自分の声を届け、各地の活動を交流します。あわせて新婦人「秋の行動」として「軍事費の大幅増ではなく、暮らしを守る予算を」をテーマに、2027年度予算に向けて防災、防衛、教育、厚労の分野で省庁交渉にもとりくみます。

次世代国会行動 新しい仲間をさらに迎えて

に要望していた女性が新婦人に入会して、国会行動への参加を決める経験が生まれています。兵庫垂水支部でも、SNSで平和への思いを発信し、議会傍聴している30代に支部が声をかけ、国会行動を

紹介して入会につながりました。この間、続けてきた次世代国会行動は次世代会員のエンパワの場にもなっています。「私にも力があるんだ」「全国の仲間にも励まされた」「国会行動って楽しいよ。こうした経験が各地で共有され、いま、「私も国会に行きたい」と全国で新婦人と出会った次世代の入会が相次いでいます。「一人でもできることには限界がある」と思った。新婦人なら私の願いを実現させてくれそう」と期待を寄せる女性たちを、さらに仲間を迎えていきましよう。

高齡化で活動できない、遠くへ行けない、退会者も出る中、歩いて集まれる範囲にと、ききょう班が誕生し、班会を楽しんでいます。消滅しかけたあじさい班は会員が移動してきて、パッチワーク小組ができ、班が少しずつ元気になっていきます。

しんぶんタイムも6班全てできるようになり、「しんぶんを読む合えば平和について考え、世の中のことわかる」「おしゃべりできてスッキリした」と、「元気の素」になつていきます。班から仲間を誘いたくなるような活動をがんばっています。